

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：32680

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24602006

研究課題名(和文) 限界集落における地域住民のエンパワメント評価と社会的排除に関する研究

研究課題名(英文) Empowerment evaluation and social exclusion in residents of marginal community

研究代表者

渡辺 裕一 (WATANABE, Yuichi)

武蔵野大学・人間科学部・准教授

研究者番号：70412921

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：本助成期間において、平成24年度及び平成26年度の2回に渡り、限界集落のA県B市C町において調査を実施した。地域住民のエンパワメント評価と社会的排除について、調査項目に含み、データの収集及び分析を行った。

住み慣れた集落での一人暮らし時の永住希望に関する分析では、「地域の高齢者福祉に対する影響力意識(地域住民の高齢者支援パワー尺度の下位尺度)」の得点が高い場合、「元気な時」「他者の世話が必要になった時」の両方で、有意に永住希望を持ちやすい可能性が示唆された。自分自身が地域の高齢者福祉をより良いものにする力を持っているという意識を持つことで、限界集落での生活継続を希望できる可能性が高まる。

研究成果の概要(英文)：In this period of grant, the cross-sectional researches were conducted in 2012 and 2014 in a marginal community. The items of empowerment evaluation and social exclusion in community residents are included in a questionnaire.

The data pointed to a significant relationship between the Power Score for elderly people and the desire for permanent living in marginal communities in both the healthy and in need of care circumstances. The results indicate that the feeling of empowerment in the community enhances the hopes of residents' to live permanently in the marginal community.

研究分野：高齢者福祉とソーシャルワーク

キーワード：エンパワメント評価 地域住民 社会的排除

1. 研究開始当初の背景

我が国の高齢化率はすでに 25%を超えており、2055 (平成 67) 年には 40.5%に達すると推計されている。しかし、地域のレベルで考えた場合、現時点でも高齢化率が 50%を超え、社会的共同体としての機能の維持が困難となっている集落がある。「限界集落」と呼ばれ、廃村の危機に直面している。「これからの地域福祉のあり方検討会報告 (2008)」でも限界集落の問題が地域社会の変化として現状認識されるに至った。

限界集落の特徴について「限界集落における集落機能の実態に関する調査報告書」では、その高い高齢化率のほか、働く場がなくなり、日々の買い物や通院に事欠き、田畑や山林の管理、冠婚葬祭も難しくなり、「廃村」へと向かっていくことが指摘されている。そして、「限界集落」では様々なコミュニティ機能の低下から地域生活が継続できず、社会的に弱い立場の住民が地域生活から排除される可能性が高まることが考えられる。

これまでの一連の研究の中での限界集落でのインタビュー調査から、お茶のみ会の習慣といった住民相互の情緒的サポートと社会的交流の機能は維持されているものの、サポート提供者の高齢化や転出などに伴って手段的サポートの提供に困難が生じている現状があるという結果が得られている。限界集落で暮らす高齢者の「ここが一番いい」「ここを離れたくない」という思いにもかかわらず地域の状況は徐々に変化し、生活を成立させるための機能が失われつつあるといえる。そして、若い世代の住民は集落外へと生活の場を求め、さらに高齢化率が高まる状況が続いていく。このように、住民が住み慣れた集落での生活継続をあきらめ、他市町村へ転出してしまうケースの増加は、限界集落が抱える大きな問題のひとつである。地域住民は集落からの人口流出がもたらす地域生活への影響の大きさを恐れており、この問題は大き

な関心事となっている。特に高齢期の一人暮らし高齢者は、他市町村に居住する家族からの呼びかけに応じざるを得なくなり、やむなく住み慣れた集落を後にする人たちも少なくない。また、病気やケガ等によって生活継続にケアが必要な状態になった場合には、地域での生活から排除され、施設への入所や入院をしなければならなくなる可能性が高まる。この「限界集落」は、将来のわが国全体の縮図であり、今後多くの地域で「限界集落」化が予想される。「限界集落」化したとしても、コミュニティ機能を維持・再生し、地域生活の継続を可能にする必要がある。

2. 研究の目的

本研究においては、2008 年度・2010 年度の 2 回の調査を実施したが、2012 年度・2014 年度にも同一対象地域において継続して実施することやその限界集落内外におけるインタビュー調査等を通して、住み慣れた地域での生活継続を阻害する要因 (社会的排除の要因) と地域生活継続可能性を高める方策としての地域住民のエンパワメントの方法の検討を目的として、調査の実施及びデータの分析に取り組んだ。

3. 研究の方法

本研究のフィールドであるA県B市C町では、高齢者が入院をしたり、集落外の家族に身を寄せたりする際に住民基本台帳上の変更が届け出られないケースが多く、住民基本台帳が実際の居住を反映していな可能性が高い。そのため、これまでも住民基本台帳を使用した調査ではなく、住宅地図を活用した全戸訪問による配票留置調査を実施した。過去に実施した2008年度・2010年度の調査においても同様の調査方法を用いた。

2012 年度調査の概要

調査期間：2013 年 2 月 27 日から 3 月 3 日

調査対象者数 (全配布件数)：228 件

有効回答数：186 件

有効回答率：82.0%

2014 年度調査の概要

調査期間：2015 年 3 月 5 日から 3 月 9 日

調査対象者数（全配布件数）：217 件

回収：208 件

有効回答数：196 件

有効回答率：90.3%

分析には、IBM SPSS Statistics 23 及び IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0 を使用した。調査票に記入された自由記述データは、テキストマイニングにより分析を行った。

4. 研究成果

(1) 限界集落における高齢期ひとり暮らし時永住希望とコミュニティ・エンパワメントの関連

「地域の高齢者福祉への影響力意識」が高い地域住民の場合、その地域住民は永住希望を持ちやすくなり、地域住民の高齢者を支援するパワーを高めるアプローチは、限界集落への永住を選択できる可能性を高めることが示唆されている。元気な状態であっても、他者の世話が必要な状態になっても、自分自身が地域の高齢者福祉をよりよいものにする力を持っているという意識を持つことができれば、地域での生活継続を希望できる可能性が高まる。

(2) 農産物直売所が持つ地域住民のパワー結集機能とエンパワメント機能の可能性

農産物直売所ができたことによって、地域住民はその運営に何らかの方法でかかわる機会を持つことができる。個々別々に拡散して存在していたパワーが農産物直売所に結集されたこととらえれば、農産物直売所に地域住民のパワー結集機能が認められると言える。次に、個々別々に拡散して存在してい

た地域住民のパワーが農産物直売所によって結集され、そして束ねられた時、地域住民自身が地域の問題解決に取り組む可能性が高くなることが推察される点について検討したい。農産物直売所が、地域の中に拡散し潜在化されていた地域住民のパワーを結集することで、「地域住民のエンパワメント機能」を果たした可能性が考えられる。

(3) 限界集落における高齢者問題解決に向けた地域住民のパワーと集落内外の家族・親戚／友人・知人へのサポート期待の関連

地域の高齢者福祉問題解決への影響力意識や共有意識を表す SPES 得点との関連で、「集落内の家族・親戚」、「集落外の家族・親戚」、「集落内外の友人・知人」からのサポート提供期待有群が無群に比べて有意に SPES 得点が高いという結果であった。サポート提供を期待できるということがパワーを高めている、もしくは地域の高齢者福祉問題解決への影響力意識や共有意識を高く持っているからこそサポート提供を期待できる、ということが明らかになった。限界集落で暮らしている住民同士は、もともとお互いに強いつながりを持っている。このつながりを維持継続、そしてそのつながりからのサポート提供可能性を高めていくことが、地域住民の高齢者問題解決に向けた力を高める上で必要な取り組みであることが示唆された。

(4) 地域住民のパワーと経済的な暮らし向きとの関連

調査の結果から、経済的な暮らし向きの評価が低い場合、パワーが低くなり、地域の課題解決プロセスから排除される。

(5) 主観的な地域からの排除感とパワーの関連

地域住民のパワーが低い場合、主観的な地域からの排除感が高いことが明らかになっ

た。

(6)主観的な地域からの排除感と年齢・性別・居住年数の関連

年齢が若いこと、女性であることにより、地域からの排除感を感じやすいことが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7件)

渡辺裕一, 限界集落における高齢期ひとり暮らし時永住希望とコミュニティ・エンパワメントの関連 - 高齢者の生活を支援する地域住民のパワーとの関連を中心に -, 日本保健福祉学会誌 18(2), 11-20 頁, 平成 24 年 8 月.

渡辺裕一, 農産物直売所が持つ地域住民のパワー結集機能とエンパワメント機能の可能性 - 限界集落における農産物直売所とのかかわり方と地域住民の高齢者支援パワー尺度得点の関連 -, 武蔵野大学人間科学研究所年報(2)(武蔵野大学人間科学研究所), 平成 25 年 3 月.

渡辺裕一, 地域住民の高齢者支援パワー尺度の作成とその保健福祉学的意義, 日本保健福祉学会誌 19(2), 59-63 頁(日本保健福祉学会), 平成 25 年 5 月.

渡辺裕一, (講演)限界集落における地域包括ケアシステムの取り組み : 地域住民のエンパワメントに着眼して, 純心現代福祉研究 18, 133-158 頁, 平成 26 年.

渡辺裕一, 限界集落における高齢者問題解決に向けた地域住民のパワーと集落内外の家族・親戚/友人・知人へのサポート期待の関連, 武蔵野大学人間科学研究所年報(3), 71-78 頁, 平成 26 年 3 月.

渡辺裕一, 行政職員から見た限界集落の現状と課題 - 行政職員へのインタビューに対するテキストマイニング分析から -, 武

蔵野大学人間科学研究所年報(4), 平成 27 年 3 月.

渡辺裕一, トンネルの開通は限界集落の住民生活に何をもたらしたか - 自由記述データのテキストマイニング分析から -, 武蔵野大学人間科学研究所年報(5), 99-108 頁, 平成 28 年 3 月.

[学会発表](計 7件)

渡辺裕一, 限界集落における地域住民のパワーと農産物直売所とのかかわりの関連 - 農産物直売所が持つ地域住民のパワー結集機能とエンパワメントの可能性 -, 日本社会福祉学会, 関西学院大学(兵庫県・西宮市), 平成 24 年 10 月 21 日.

WATANABE, Yuichi, Change of community people gathering in two years in a marginal community, the 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul (Korea), 平成 25 年 6 月 25 日.

渡辺裕一, 限界集落における地域住民の高齢者支援パワーと集落内外の家族・親戚/友人・知人へのサポート期待の関連, 日本社会福祉学会(北星学園大学), 平成 25 年 9 月 21 日.

WATANABE, Yuichi, Relationship between situations of household finance and power for problem-solving in a marginal community, The Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development, Melbourne(Australia), 平成 26 年 7 月 11 日.

WATANABE, Yuichi, Relationship between subjective social exclusion and power as a community resident in marginal communities, Gerontological Society of America Annual Scientific Meeting, 2014, Washington, DC(U.S.), 平成 26 年 11 月 6 日.

WATANABE, Yuichi, THE RELATIONSHIP

BETWEEN A POWER OF COMMUNITY RESIDENTS
AND A GOODNESS OF LIVING FOR ELDERLY IN
A MARGINAL COMMUNITY, INTERNATIONAL
ASSOCIATION OF GERONTOLOGY AND
GERIATRICS - ASIA/OCEANIA 2015 CONGRESS,
Chiang Mai (Thailand), 平成 27 年 10 月 20
日.

WATANABE, Yuichi, Relationship Between
Subjective Exclusion Feeling and Age,
Gender, and Residence Year in Marginal
Community, Asian and Pacific
Association for Social Work Education
Conference, BANGKOK (THAILAND), 平成 27
年 10 月 22 日.

〔図書〕(計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡辺 裕一 (WATANABE, Yuichi)
武蔵野大学・人間科学部・准教授
研究者番号：7 0 4 1 2 9 2 1

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：